

## 紀州大地の会 本年度のわかやま環境大賞受賞！！



平成18年度の第5回わかやま環境大賞（主催 和歌山県）にWeNET 運営会員の「紀州大地の会」が選ばれました（写真・表彰状を受け取る園井信雅代表世話人）。わかやま環境大賞は、環境の保全に関する実践活動が他の模範となる団体や個人に贈られるもので、毎年1グループのみの受賞です。

受賞理由は平成6年設立からの和歌山市を中心にした紀北・紀中・泉南地域における活動で、EM（有用微生物群）を総合活用し、より健康的で環境負荷の少ない有機農業技法

の研究や実践的普及の拡大、また生ゴミ類の簡易堆肥化や各種悪臭・汚れの除去など環境浄化活動への技術協力、そして学校や婦人団体等への環境教育支援が評価されたものです。園井さんはこの受賞を「活動のターニングモメントとして、これからも頑張っていきたい」と話していました。尚、第1回大賞は会員の「㈱東洋精米機製作所」、第3回は運営会員の「はしもと里山保全アクションチーム」が受賞し、5回の大賞中の3回までがWeNET メンバーで占めています。

### 温暖化防止啓発キャンペーン参加者募集！

6月より和歌山駅前にて毎月1回、推進員による温暖化防止啓発キャンペーンを行っています（ECOわかやま参照）。次回は、以下の日時で行います。推進員の皆様の参加をお待ちしています！！

・日時 9月6日（水） 18時～19時30分 ・場所 和歌山駅正面入口（バスターミナル前）

（参加には自主制作のメッセージボードが必要です。詳細は事務局まで）

\* 同封の「ECOわかやま」にも主な活動が掲載されています、併せてご愛読ください。



## 紀南でも果敢に啓発キャンペーン！

和歌山駅での温暖化防止啓発キャンペーン（ECO わかやま参照）に続き、7月17日（月）には田辺市のオークワ・パビリオンシティでも紀南地区の推進員らによるキャンペーンが行われた。参加メンバーは松下・柳谷推進員ら6名。午後の3時から5時まで、行き交う買い物客らに「温暖化防止に協力を」や「森林を大切に」等と呼びかけた。



胸にかけたメッセージボードには「エアコン設定28度に」や「アイドリングストップ」など、各自の思いが表れていた。また和歌山駅と同様のアンケートも実施、約2時間で48人から貴重な意見が寄せられた。呼びかけ人の水本さんは「これで皆さんが少しでも温暖化防止に興味を持ってくれば」と話していた。このキャンペーンも定期的に行われるという。

## 今年度事業進捗状況

事務局では、第2回総会において承認された計画に基づき業務を進めています。現段階においては、書類申請途上（主体間連携モデル推進事業）を含め、全ての事業の企画・立案が済み、具体的なイベントや会議・研修の場所と日程の調整、講師手配などを行っています。詳細については、概ね決定している各スタッフとWeNET会員、並びに推進員のみなさんと事務局との連携プレーにより、次々に詰めていっています。

### 第3期 推進員養成講座日程

- |         |     |       |     |
|---------|-----|-------|-----|
| ① 9/3   | 田辺  | 9/10  | 和歌山 |
| ② 10/21 | 田辺  | 10/22 | 和歌山 |
| ③ 12/9  | 和歌山 | 12/10 | 田辺  |
- ※スキルアップ研修・委嘱式 未定

### 第2期 環境マイスター養成講座日程

- |         |    |       |     |
|---------|----|-------|-----|
| ① 10/11 | 田辺 | 10/12 | 和歌山 |
| ② 10/25 | 田辺 | 10/26 | 和歌山 |

## 全国の道府県センターとの交流から

代表理事 重栖 隆

6月26～27日に全国地球温暖化防止活動推進センター（東京）で開かれた都道府県センター職員基礎研修、そして7月7日に岐阜市で開かれた都道府県センター全国連絡会第5回総会と、2回連続して全国各地のセンターと交流する機会があった。

前項の研修は、全国センターが都道府県センター職員のスキルアップの一助として毎年、対象やテーマを分け数回実施している研修機会のひとつ。指定から日が浅い和歌山県センターからの受講は今回が初めてだ。また、全国連絡会は、全国の道府県センターが情報や経験を交流したり政策要求をまとめたりするための集まりで、年に一度、全国持ち回りで総会を開いている。もちろん和歌山県センターは今回が初の出席で、会合の冒頭、前回総会后新たに指定されたセンターとして紹介され拍手で迎えられた。

これらの会合、さすがに全国レベルとあって講義内容は面白く、また様々な経験を摂取できる場としても貴重だったが、それもさりながら、参加するたび最も強く感じたのは各センターの個性の差だった。

各地のセンターの中には、財政や人事で事実上行政機関の一機構のような所もあれば県の外郭団体もある。道府県センターの約半分はNPOだが、一口にNPOといっても我らが和歌山のように純然たる市民運動組織もあれば、環境関連の事業団体が集まって作った連合組織もあるといった具合で、総論賛成まではいいのだけれど、いざワークショップや討論で細かい問題を詰めるとなると問題意識がすれ違って、お互い、どうにもじっくりかみ合わない感じなのだ。

もちろん、市民運動でなければ…などと排他的な主張をする気は毛頭ないが、例えば同じ地球温暖化問題に取り組むにしても、使命感に燃えて参加するボランティアと人事異動でたまたま担当した職員とでは、熱意というものに当然ながら差がある。であればこそ「かみ合わない」のだが、だからといってボランティアの側が大きな成果を上げるとは限らないのが悔しいところだ。むしろ、専従する人員と資金の体制で勝る行政的機関の方が着実に成果を残す可能性は高いだろう。

いうまでもなく、地球環境問題の克服は、今という時代を共有する人々すべてが協働して担わなければならない巨大な課題だ。そうした意味では、人々の中から生まれ、常に人々とともにあるボランティア組織こそが本来、協働のセンターにふさわしいと思う。だが、それが求められる力を発揮するためには、解決しなければならない問題がたくさんある。そのことを改めて感じさせられた二つの会合だった。



## クローズアップ！ わたしたちの活動（４）

このコーナーはわかやま環境ネットワークに参加する団体や企業、個人の活動記録と今後の展望を紹介します。

### 熊野環境会議

代表 小野 正 治

私たちの会は、地球環境がだんだん悪くなっている事を憂慮している人々の集まりです。

地球環境をこれ以上悪くしないために、熊野地域の美しい環境を守り、未来の子供たちに素晴らしい自然環境を引き継ぎたいと、ささやかな活動を続けております。

会の発足は、1992年6月です。会員は新宮市を中心とした熊野地域の人々で、会員数は現在60名ほどです。

私たちの基本的な活動は、簡素な暮らしを目指しています。発足当時から首尾一貫“ごみの減量化”の取り組みです。



「障害者と市民の集い」ゴミ分別

新宮市ではゴミの20品目分別を行い、ごみの減量化に取り組んでいますが、

私たちの活動もすこし影響していると思います。紀南地域の市町村でもゴミの分別化が少しずつ進んでいます。

私たちは生ゴミの堆肥化にもかなり以前から取り組み、有用微生物郡を利用した生ゴミ処理容器の補助金制度や電気処理機補助金制度の実現にも取り組んできました。



新宮市の緑ヶ丘エコ広場 19品目の分別

家庭排水の汚水ということで合成洗剤の有害性を訴え、石けん洗剤の使用を呼びかけられました。

産業廃棄物の不法投棄問題にも何箇所か取り組みました。不法投棄の摘発や撤去作業も何度か関わりました。更に、民

間業者による産業廃棄物の最終処分場建設に反対してきました。

原子力発電にも反対をしています。過剰な欲望を満たすためのエネルギー確保の手段であり、放射性廃棄物の子孫への負債は、許されない事であり、原発事故の発生を心配して取り組んでいます。

今でも残念でならないのは、国立公園第2種特別地域であった新宮市の佐野海岸の埋立て工事です。



環境講演会

私たちは、新宮港第二期整備事業は無駄な公共事業だと考え行政と対立しました。万葉の浜・佐野海岸は、海の熊野古道だったのです。

河川、海岸、道路の清掃にも他団体と一緒に長年取り組んでおります。6年前から熊野川川原で環境に優しいお盆の精霊送り「水辺の灯火」をお手伝いしています。



精霊送り「水辺の灯火」

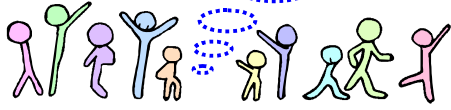
私たちはこれからも環境に配慮した街づくり、ゴミの減量化や街の美化に取り組んでいきたいと考えております。

熊野環境会議 連絡先

新宮市田鶴原町2-4-18 電話 0735-22-7813

代表 小野 田 正 治

気がるに・気うくに  
エコライフ



『省エネの達人』、NPO 環境を考える会リベラル代表の川口美智子さんに省エネの一例を教えてください。

「快適エコライフは、まず冷蔵庫から」

梅雨も明け、海や山が恋しくなる季節となりました。今回は、よく使用する冷蔵庫について考えてみましょう。



まず、食材を買う時のポイントは地元で取れた、旬の食材を選ぶ事!! これらの食材は、新鮮で美味しく安くて栄養価も高い上に、生産時のエネルギーや運搬時のエネルギーが少なく済みます。土地で取れたものを土地で食べる「地産地消」を進めることが、地球温暖化防止に繋がります。

つぎに、冷蔵庫は10℃以下、冷凍室は-15℃以下に温度調節し、わずかな冷気を循環させ効率よく冷やせるよう庫内には物を詰め込みすぎないようにしましょう(目安は7割程度)。また、扉の無駄な開閉で冷気を逃すことのないよう、庫内の状況を把握できる『在庫表』を扉に貼る工夫も必要です(写真)。在庫表があれば、2~3日分の献立づくりが楽にでき、食材を無駄なく使えて必要な買い物も一目でわかります。

右上に続く

「不要な物は買わず、食材をゴミにしない」を心掛けると共に、季節柄、食材を早い目に使い切り食中毒などを防ぐ配慮も必要です。

① 必要な物だけを取捨選択し、② 余分なエネルギーは使わない、③ 物は大事に使う。このスタイルを繰り返し、環境にも体にも心地よい快適なエコライフを楽しみましょう。身近な「冷蔵庫」は、実は様々な環境問題(食・エネルギー・ゴミ問題など)と関わっています。この夏、ご家庭の冷蔵庫から見直してみても如何でしょうか?

ブログ始動! 活きのいい? 情報を発信!!

6/21 より、WeNET のホームページで『ういねっと通信-ブログ版-』が始動しています。(もう既にお気に入り追加されている方も多いと思いますが...) 担当は、事務局職員の通称「歌舞(カブ)ちゃん」こと西出さんです。事務局からのお知らせやタイムリーな話題を随時掲載してくれていますので是非ご覧下さい。年3回の機関紙『ういねっと』共々乞うご期待!! <http://wenetweb.blogspot.com/>



NPOわかやま環境ネットワーク通信「ういねっと」  
第4号(平成18年7月28日発行)

発行: NPOわかやま環境ネットワーク  
〒641-0051 和歌山県和歌山市西高松1-6-4  
TEL 073-432-0234 FAX 073-421-6545  
HP: <http://www.vaw.ne.jp/wenet/>  
E-mail: [wenet@vaw.ne.jp](mailto:wenet@vaw.ne.jp)

活動に参加して下さる会員を募集しています!

- 年会費 運営会員(個人・NPO・学校) 3000円
- (事業者・公共団体) 一口10000円
- 会 員(個人・NPO・学校) 3000円
- (事業者・公共団体) 一口10000円

※詳しくは事務局までお問い合わせください。

